丸山湿原群保全の会会報

（第 124 号）

発行日：平成 29 年 11 月 15 日　編集／発行：丸山湿原群保全の会

〒669-1211　宝塚市大原野字炭屋 1-1　西谷地区まちづくり協議会事務局内
TEL/Fax0797-91-1788
090 - 1895 - 8061（今住）
E-mail：maruyamashitugengun@gmail.com

祝「化石賞」受賞！バッドジョークです。ドイツで開かれている国連気候変動枠組条約第 23 回締約国会議（COP23）で、NGO が日本に与えた賞です。化石燃料の使用を控え、温室効果ガスの抑制に前向きでない国に与えられる賞。**京都議定書で頑張った国とは思えない不名誉です。**（何度か受賞していますが…常連国？）石炭燃料の積極活用（新技術発電所輸出・建設など）ジョークとは言え、やはり経済優先のアメリカと同じようにに海外からは見られているのでしょう。

CO^2の封じ込めに植物の役割は大きい。その意味でも湿原保全活動は、小さい動きですが意義は大きいと思います。日々頑張っていきましょう。

霜月とはよく言ったもので、西谷では本格的な霜が連日降りだしました。いよいよ冬。冬らしい冬が来てほしいものです。寒いのも嫌といえば嫌ですが…。

（今住　11 月 13 日作成）

環境学習

★10 月 20 日（金）西谷小学校３年環境学習３回目（フィールドワーク②）曇りのち小雨

環境学習として 2 回目のフィールドワークを実施しました。**前回は梅雨の真っただ中にもかかわらず晴天。「お百姓にとっては悪い天気だよ！」と言っていましたが、逆に今年の９・10 月は天候が安定せず、稲の刈り取りには皆さん苦労されていました。**この日も今にも降り出しそうな天気で、前日にキャンセルかとヒヤヒヤしました。バスの配車の都合上早い決断が必要なのです。見えないところで皆さん苦労されています。

阪急田園バス（旧西谷バス）

もう 3 回目の顔なじみ。バスの中から子どもたち（大人も？）が手を振り明るい顔を見せてくれました。行儀よく整列してご挨拶。**駐車場付近でヌルデミミフシの解説。**いざ出発！と思うと、**入り口付近にヤマガキ（山柿）があり、赤く熟していた。「柿ですよ」と話すと、「食べられる？」と聞いてきた。「食べられる…」で試食。（最近のガキは、カキは甘いと思いこんどる！ハハハハハ。失言！悪魔ののささやきです。）「ガブリ…」「ウエッ！しぶー！」当たり前です。カキの原種。**前回から何度も「食べられるよ」とささやく悪魔の言葉に学習していなかったのか。センブリ・タカノツメ・タムシバなど数々口に入れた少年がいたと思うが。**経験は宝、これからもチャレンジです。毒には注意！しかし昔の人は、これらを「渋抜き」「あく抜き」時には「毒抜**

ヌルデミミフシの説明

渋柿に群がる

駆除後のオオスズメバチ巣

オオスズメバチ巣（10.17 撮影）

薬草の説明

き」し食べてきたのだから驚きですね。カキ（柿）は「正倉院文書」や「延喜式」にも干し柿として書かれているとか。また柿渋は防腐剤や染料として古くから利用されています。柿の葉寿司もあるし。

だから、ヤマガキは本当に食べられるし、品種改良されて現在の甘柿になっているのです。もっと山のことを知って「山ガキ」になってほしいな。リンゴと一緒に入れておくとエチレンガスが出て、渋抜きできますよ。チャレンジしてみては？もちろん干し柿も。

いかん、入り口で終わってしまいそうです。エントランスを進むと、前号で紹介したオオスズメバチの巣あと。もうただの木のうろになっていますが、オオスズメバチの巣があったこと、駆除したことを説明。またオオスズメバチは本来攻撃的なハチではなく、攻撃的なのはキイロスズメバチで特に注意が必要と話しました。しかしオオスズメバチは世界最強のハチといわれています。土の中や、木の幹・うろに巣を作ります。刺激を与えると…気を付けましょう。

ここで、「保全の会」御大（大御所）が一言。「ハチに刺された時はヨモギが利く！」私は「おしっこが…」これ、今は通用しません。信じてたのにな～！まだ信じている人も…

途中、ジャコウアゲハの食草アリマウマノスズクサ（有馬馬の鈴草　ミッキーマウスのように見える葉　蔓草）や天狗のうちわのようなコシアブラ（漉油）アカマツ（赤松）の朽木からはミルワーム（ゴミムシダマシ Sp の幼虫）をかわいがり、大量のオオウラジロノキの実（小リンゴ）の上で滑り、こけるなど楽しい時間を過ごせました。途中雨も降りだしましたが本降りにはならず、ウメバチソウ（梅鉢草）の観察や、アカハライモリを捕まえたりと意欲満々の活動が続きました。アカハライモリは持ち帰り、飼育にチャレンジ。動植物の持ち出しは原則禁止ですが、教育・研究のためには特別に許可されています。持ち帰ってから飼育方法など調べ大切に育てているようです。３ 学期の最後のフィールドワークで元の場所に戻す予定です。比較的強い両生類ですが水の汚れには注意が必要。寿命や生まれてからの生態も調べてくれるとうれしいのですが。結構謎の多い生き物みたいですよ。またわかったことを教えてくださいね。

アリマウマノスズクサ

ミルワーム

最後に駐車場で植物の確認や振り返りをしてお別れです。テクニカルドライバーの多くいる阪急田園バス（旧西谷バス）がお待ちかねでした。また３学期にイモリとともにお会いしましょう！ありがとうございました。

コシアブラの葉は５枚

スリップしたオオウラジロノキの実

最後の振り返り

活動報告

★10 月 22 日（日）定期活動は台風接近のため中止しました
26 日（木）に状況確認に行きました　　晴天

気候変動の影響か強力な台風がシーズン終わりにやってきました。紀伊半島・六甲山のおかげで、比較的台風の風には影響されない地域ですが、今回はかなりの風。丸山周辺もどうなっているのか見に行きました。**駐車場は、背面の山に生える大きなコナラをはじめとする数本の木が倒れていました。根から起こされたようです。風向きが普段と逆だったのかもしれません。**

駐車場の倒木

エントランスの歩道にはカキの木が倒れていました。駐車場に倒れた木を含め、**応急的な処理はされていて、駐車や歩くことには問題がない状態でした。早い対応に感謝です。**

道には杉葉や広葉樹の葉がたくさん落ち荒れた感じはありますが、色取りの美しさに驚かされました。**特に杉の葉にはびっくり！**

第 3 湿原の歩道倒木

第 1 湿原と第 4 湿原の間の倒木

湿原内の状況はほとんど変化がないものの、**第 3 湿原歩道にコナラが折れ倒れていました。**これは歩道の外に。隣のイソノキは無事。逆に日当たりがよくなりイソノキにはいい環境ができたかも。不思議なものですね。また、**第 1 湿原と第 4 湿原の間のリョウブなどが根ごと起こされ倒れていました。**根が浅いというのもあるでしょうが、風の通り道になり相当の力がかかったのでしょう。**気圧の変化だけでこれほどのエネルギーが生まれることに感心します。逆に地面低く生活する植物の力強さにも。**

広葉樹の枝や落ち葉も一度に落とされ少々荒れ模様。落ち着くにはしばらくかかるかもしれません。

ツメレンゲ

岩上のツメレンゲ

ついでに丸山周辺エリアもひと回り、**山頂上付近の岩場ではツメレンゲ（爪蓮華・多肉植物・環境省準絶滅危惧種）がたくさん花を咲かせていました。台風の風・雨もものともせず、超貧栄養状態でよく花を咲かせるものだと自然の不思議をまた垣間見た思いです。**

★11 月 11 日（土）定期活動　８名で活動（内一般参加 1 名）　晴（不安定）

定期基礎調査、巡回、ごみ回収、観察、倒木除去整理

目的	市内	市外
丸山	19	7
ハイキング	7	2
その他	1	2

来場者数　計 39 人
（竹筒ポスト人数）

場所	時間	気温【水温】	電気伝導度（EC）	PH
入口	10：00	19.5℃		
視点場	10：45	16.1℃		
第 3 湿原	10：25	【13.8℃】	37.5μS/cm	6.7
第 1 湿原	11：00	【14.2℃】	32.4μS/cm	7.1
第 2 湿原	11：33	【14.7℃】	37.2μS/cm	6.8

【入口～湿原】

台風の残骸の処理。**カキの木が邪魔な状態なので細かく柴に。手慣れた作業です。風呂の焚きつけにでもできればいいのですが、今はなかなかね。**道を進むうちに甘い匂いがあちこちで。**タカノツメ（鷹の爪）の発酵臭です。**今、地酒ブーム。その土地の酵母を使い日本酒を作るとか。

カキの柴

枝の片付け

タカノツメ紅葉

どなたか、**タカノツメを使った日本酒を作ってくれませんかね？**できるでしょう？西谷米と水それにタカノツメ酵母。準備万端です。想像ですがやはりキャラメル風味のお酒？私は飲みませんがやはり売れないか！酒蔵もないし…法律も厳しそう。**近くの酒蔵さん挑戦しませんか？**

【湿原】

湿原はもうほぼ冬景色。そんな中、**丈の低いウメバチソウが咲いています。**しかもかなりの数。しかしもう終わりの花ばかりに見えました。

ウメバチソウ

イノシシの攪乱

次回の活動日には終わった後の飾り雄蕊（おしべ）だけの花ばかりになっていそうな感じです。種を残しまた来年です。

湿原周囲に積まれたヌマガヤの枯れ草にイノシシが元気にごそごそした後がたくさん見られました。ミミズ狙いか？彼らも生きるために必死です。でも荒らし過ぎには要注意！ササの根を掘り起こしてくれるのはありがたいですが。身勝手ですね。

【ほかに観察できた動植物】（一部ですが・・・）

ヤブムラサキ

木の柵についたコアカミゴケ（地衣類約 5 ㎜）

ウグイス？の巣（あと）

ツルニンジンの種になりかけ

クビオレアリタケ（冬虫夏草）

コアカミゴケはコケと名前がついていますが地衣類です。地衣類は、菌類と藻類の共生体だそうです。イメージとしてサンゴと褐虫藻の関係によく似ている？ややこしいですね。詳しくは各自調べてください。

ヤボウキ

・次回活動日 11 月 26 日（日）12 月 9 日（土）24 日（日）

11月26日はササ刈り実施予定ご参加を！